

平成 26 年 9 月 1 日
 沖縄県がん診療連携協議会
 普及啓発部会

平成 26 年度 養護教諭 5 年経験研修

概要

開催日時	： 平成 26 年 8 月 14 日（木） 9:30 ～ 11:30
テーマ	： 「がんの総論について」 「小児がんについて」
講師	： 増田 昌人 （琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授） 百名 伸之 先生 （琉球大学医学部附属病院骨髄移植センター長）
主催	： 県立総合教育センター 共催： がん診療連携協議会 普及啓発部会 琉球大学医学部附属病院がんセンター
場所	： 県立総合教育センター（沖縄市）
参加者数	： 28 人

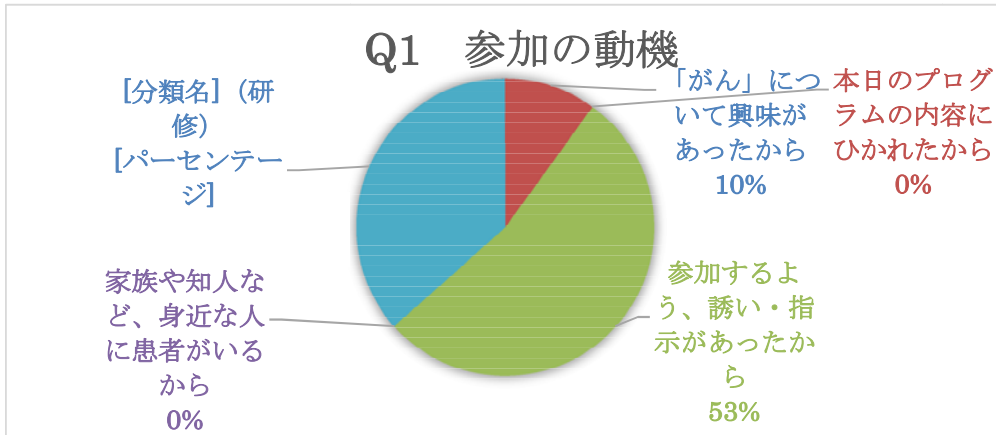
講演の様子

がん診療機能別	人数
小学校 養護教諭	13 人
中学校 養護教諭	11 人
高等学校 養護教諭	2 人
特別支援学校 養護教諭	2 人
合計	28 人

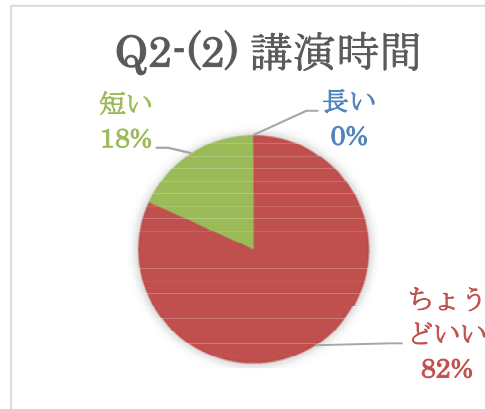
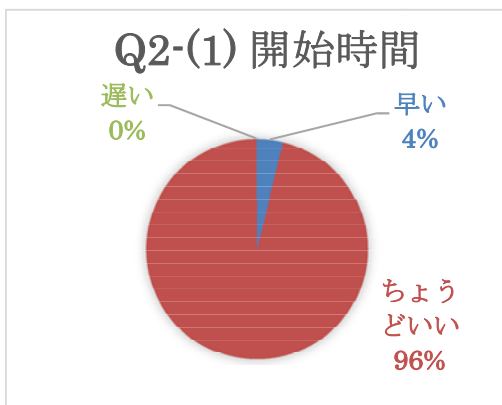


講演のアンケート結果（回答者 27名）

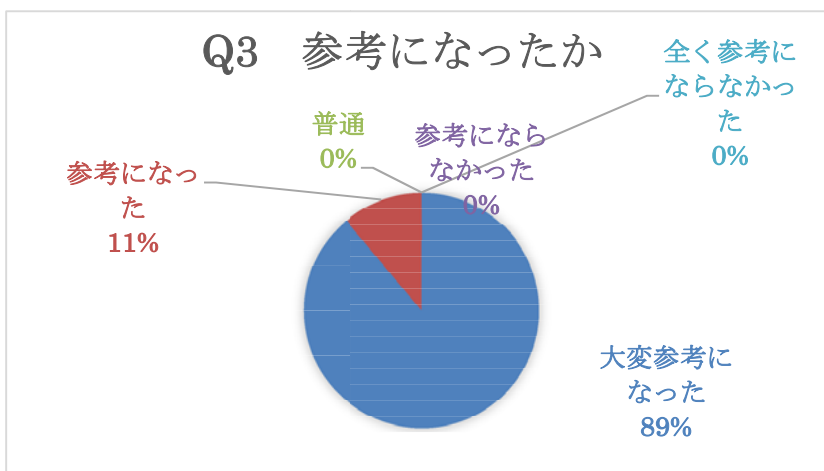
Q 1. 本日の講演会に参加された動機について教えてください。（複数回答可）



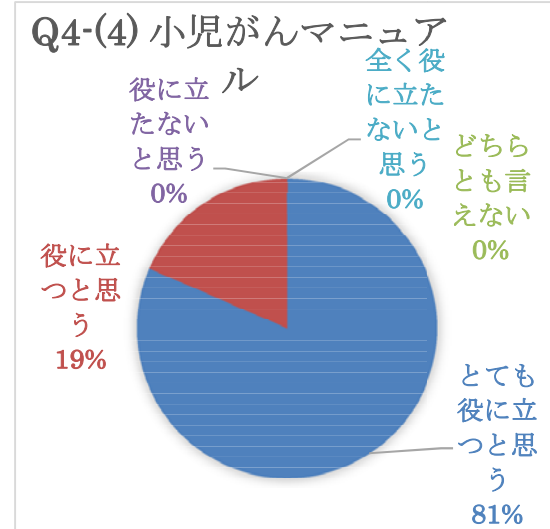
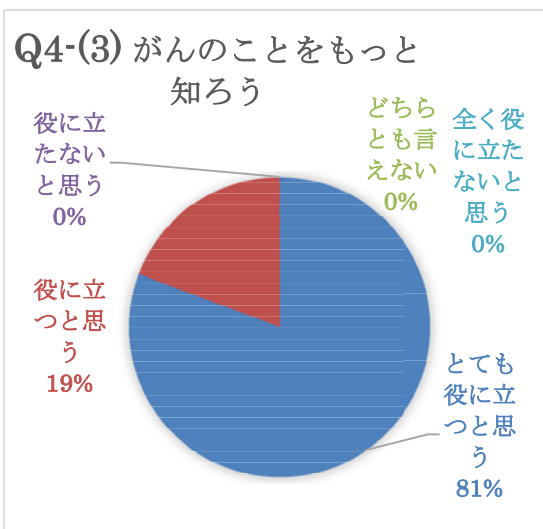
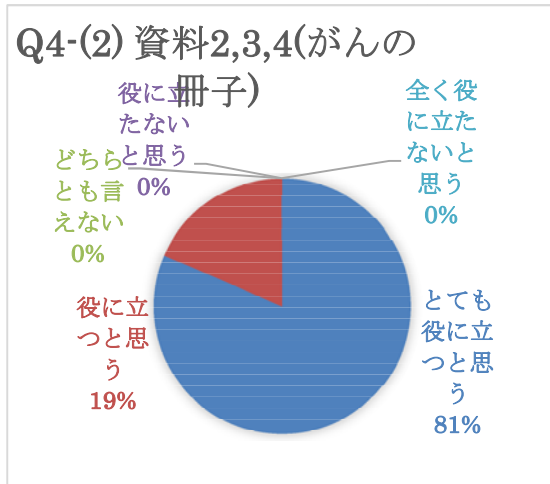
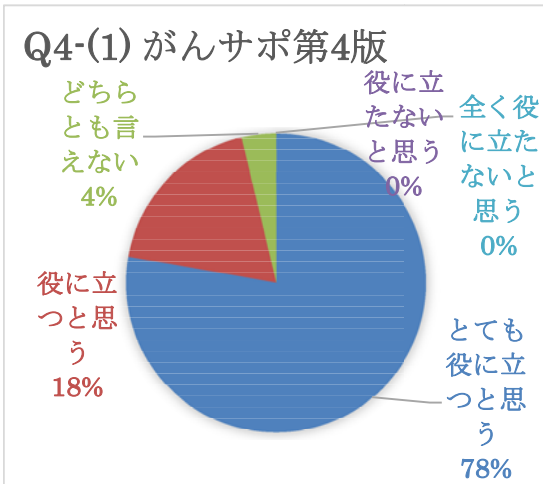
Q 2. 講演時間はいかがでしたか？



Q 3. 本日の講演会は参考になりましたか？



Q 4. 本日お配りした資料は、あなたの役に立つと思いますか？



Q 5. 講演に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・がんという病気が身近なものであること、成人のがんと小児のがんは違うことなど、がんについての理解を深めることができました。様々な支援方法や支援組織があることも知ることができ、養護教諭としてできる支援を考えていきたいと思いました。
- ・私自身、母を白血病で亡くしました。あのころは家族皆が精神的につらい状況で、でもだれにも相談できなくて（誰に相談すれば良いのかも分かってなかったので、苦しかったのを思い出します。今後は、私と同じような思い、又は患者となった子の心に寄り添えるように、養護教諭としてのネットワークや力量を連携した対応につなげていきたいと思います。
- ・今まで遠くの存在だと感じていた”がん”だったが、より身近なこととして捉えられた。養護教諭として正しい知識と理解をもって、今後に役に立てたい。
- ・がんに関する正しい知識だけでなく、患者本人のみならず、家族を支えるサポートに関する情報を知ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・がんについては知らないことが多かったので、この機会に専門の方からお話を聞けてよかったです。たくさんの資料もありがとうございました。

- ・「小児がん就学の相談対応の手引き」という本を活用していきたいと思いました。もっと、小児がんについて学ぶべきだと思いました。
- ・がんについての正しい情報が必要な時、困ったことがありました。こんなにも身近に相談できる場所があったことを知り、うれしいです。この情報を必要な人の耳に入るよう伝えていきたいです。
- ・小児科に入院した場合は、退院前に学校とカンファレンスをするのは当たり前に行っていると思うが、微妙な年齢の高校生が成人病棟に入院した場合、退院時のカンファレンスができているのか気になりました。
- ・初めて知ることが多く、勉強になりました。院内学級があることや、家族ぐるみで支援していることなど・・・。
- ・とても勉強になりました。大学でもがん看護について何度も学習してきたつもりでしたが、”養護教諭”として”がん”にむき合って完結することがありませんでした。私の学校にも小児がんで兄妹を亡くした子どもがいます。これから、その子・保護者とどのようにかかわりを持とうか、また、これからのがん教育にどのようにかかわろうかと、とても考えさせられました。学びや想いが多すぎて、この枠内に入りきれません。。。
- ・がん患者の児童生徒がいる場合、がん患者の家族を抱えている児童生徒がいる場合の学校での支援体制、養護教諭としての支援を学ぶ機会となりました。児童生徒の健全な成長を導き出し、次世代へつなげるためにも、学校・病院・関係機関全体で支援していくことが大切だと感じました。
- ・これまで、がんの生徒への支援についてきちんと考える時間を持ったことがなかったので、とてもよい機会になりました。身内にがん患者のいる生徒がいるのは当たり前になっているので、養護教諭としてできることを考えていきたいです。
- ・自分の周りにもがんに苦しめられている方々がいたりするので、今回学んだことを活かしていきたいなと思います。
- ・がんについて表面的なことしか知らなかったなので、もっと詳しく勉強したいと思います。困ったら、すぐでんわしてもいいと聞いて安心しました。頼りにしています。ありがとうございました。
- ・短い時間の中で、とても貴重な講話を聴くことができ、大変よかったですと感じました。日本人の死因第1位である”がん”。とても身近な病気であることを実感しました。自分自身、家族、かかわるすべての方ががんになった時、どう対応していけばいいのか・・・、もっと深く”がん”という病気について知る必要があると感じました。
- ・小児がんは知っていたが、がん＝大人の病気、生活習慣病というイメージが強かった。がんや学校現場からの関わりについてくわしく学ぶことが出来て良かった。
- ・知らなかった事が多く、とても勉強になりました。もっと詳しく知りたかった、話を聞きたかったなと思う部分もありましたが、本日いただいた資料に目を通し、さらに学んでいこうと思います。ありがとうございました。
- ・これまで、身近にがんの児童がいなかったこともあり、知識が乏しかった。交遊機会が学ぶことができよかったです。

- ・学校現場にいると小児がんの子どもたちと接することは少ないため、私自身、小児がんについて知らないことが多かったため、今回の講演を聞いて小児がんの実態等を学ぶことができました。また、もし学校に小児がんの児童生徒がいた場合、どこに相談に行ったらいいのか迷うと思います。ですが、増田先生が「迷ったり困ったら、すぐがんセンターへ電話してください」とおっしゃっていたのでとても心強く安心しました。この研修で得たことをこどもたちへ還元できるよう、いただいた資料を活用していきます。ありがとうございました。
- ・質疑応答の時間もあり、たくさん学ばせてもらいました。ありがとうございます。サポート体制のイメージがなかなかわからないので、どんな職種がどこをサポートできるなどの具体的なことについても知りたいと思いました。
- ・子どもの死についてももう少し聞きたかった。
- ・とても勉強になりました。
- ・「がん」についての講演は初めてだったので、すごく勉強になった。
- ・とてもわかりやすく説明していただきました。ありがとうございました。
- ・がんに関する講演を聞く機会はあまりなかったので、とても勉強になりました。何か悩んだり困ったりしたときは相談したいと思います。
- ・とても勉強になりました。正しい知識を持ち、子どもたちの未来がその子らしく生き生きとしたものになるように、私はどの余蘊愛泉が出来るか考えるきっかけとなりました。
- ・がんについて詳しく学ぶことができ、とてもよかったです。”養護教諭としてできること”を考えてみると、がん患者やその家族・きょうだいへの心のケアや、学校に戻ってくるときの学校側の対応や体制がとても大切なんだと思いました。養護教諭だけでなく、管理者への講演会も実施してもらいたい。

Q6. 今後、取り上げてほしいテーマがあれば、教えて下さい。

- ・子宮頸がんや性教育
- ・皮膚性疾患について、特に小学生では、発疹やかゆみ等で等であり室する子が多い。その判断（虫さされ？感染性疾患？内科的？アレルギー？）にととても困っています。自分で病気別の写真を準備して判断するよう心掛けていますが、観察ポイント、対応を詳しく知りたいです。
- ・がんもそうですし、長期入院、治療が必要な子の支援についても知りたいと思いました。

所感

実際の学校現場で、保健室の先生として、毎日児童生徒の体調管理や保健指導をされている

養護教諭の先生方の研修会であった。実体験にもとづいた質問が多く、以下のように、参加

者からの質問があった。

- ・退院時カンファレンスについて
- ・子宮祈願ワクチンについて
- ・がん教育と性教育（自分の身体を守ること）
- ・きょうだい児のフォローについて（院内の臨床心理士・保育士のサポート）

養護教諭の先生方から現場の声を聞き、がん診療や相談支援に関して、今後は、医師と各学校との連携、医師と養護教諭の先生方との連携を構築していく必要がある。

平成 26 年 10 月 8 日

がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 1 日～9 月 30 日の 1 ヶ月間、がん検診の受診を県民へ啓発するラジオコマーシャルを放送した。

協 賛：沖縄食料株式会社他

➤ ラジオ取材について

番組名：「マイクアラカルト」（「Island Today」放送中にて）

テーマ：普及啓発部会で行ってきた「がん対策」に関する取り組みなど

放送日：平成 26 年 8 月 29 日（金）午後 5 時 20 分～25 分（5 分）

出演者：インタビュアー 杉原 愛

ゲスト：長井 裕（琉球大学医学部付属病院 産科婦人科 副科長 准教授・
沖縄県がん診療連携協議会 普及啓発部会 部会長）

➤ ラジオ取材について

番組名：「ラジオカープラス」（「ピン！と Style」放送中にて）

テーマ：「おきなわがんサポートハンドブック 第 4 版」の広報

放送日：平成 26 年 9 月 2 日（火）午前 11 時 25 分～11 時 33 分（8 分）

出演者：レポーター 長嶺 花菜

ゲスト：望月 祥子（ハートライフ病院地域医療連携室 MSW）

➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

協 賛：沖縄ヤクルト株式会社他

番組名：「チャットステーションL」

テーマ：「受けよう！ウチナ～！がん検診」

放送日：平成 26 年 9 月 25 日（木）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：松野 和彦（那覇市立病院 呼吸器内科医長）

高江洲 アヤ子（那覇市立病院 総合相談センターMSW）

糸数 公（沖縄県保健医療部 健康長寿課課長）

聴取者メール応募数：約 200 通

内 容：聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードを基に、「がん検診」を受けることの重要性、肺がんについて、拠点病院の相談支援センターの PR 等、専門のゲストを招き解説を行なった。

がん検診と肺がんについて

(那覇市立病院 呼吸器内科医長 松野 和彦 先生)

がんは検診などで、早期発見・早期治療で完治する可能性が高くなる。そうすると体へのダメージや医療費の軽減にもなることから、「がん検診」の必要性、早期発見、早期治療の大切さが伝えられた。

健康診断とがん検診については、健康の状態をチェックするための健康診断と、病気であるかどうかを調べるがん検診とは別ものと考えてほしい。人間ドックは、自分の身体が大丈夫かどうか調べるものなのでがん検診と組み合わせたり代用したりすることができる。近年、人間ドックを受ける方が、増えてきているような印象を受ける。

肺がんの初期症状として多いのは咳だったり、発熱だったりするが、がんのできる部位によっては症状が出ないままに進行している場合も多い。肺がんは、レントゲン検査や、喀痰検査の2つを行うことが多く、それから CT 検査などが行われる。

がん検診の受診に関しては、肺がんは、40歳以上は1年おきに、子宮頸がん検診は20歳以上から2年に1回、乳がん検診は40歳以上か2年に1回受けて頂き、胃・肺・大腸がん検診は2年に1回、定期的に受けて頂きたい。

がんの治療は、基本的には切除、薬物（化学）療法、放射線療法の三本柱があるが、治療をしてがんに打ち勝つのみならず、治療中でも仕事や家庭など普段の社会生活を送れるようになっているので、そのためにも、がん検診の早期発見がとても重要である。

がんが遺伝するかどうかについては、がんは遺伝しないと見える。がんは遺伝子に傷がつくからとも言われているが、生活習慣やタバコ・肥満などの環境要因が大きく関わっており、がん家系という言葉も一般の方に誤解を招いているし、ぜんそくだからと言って、肺がんとの因果関係があるとは言えない。

沖縄県のがんの現状、がん検診受診率について

(沖縄県 保健医療部健康長寿課 糸数 公氏)

沖縄県のがんの現状について、広く県民への周知と県としての取り組みや、健康長寿の観点からの「がん検診」の必要性を強く訴えておられた。

現在、がんは死亡率の第1位を占めているが、沖縄県のがんの罹患率は、昔から全国と比べたら高い方ではないが、男性の大腸がんと女性の子宮がん・乳がんは年によって全国よりも高い場合がある。子宮がんは、ウイルスの感染症が多く、白血病は九州沖縄での罹患率が高いという風土の違いがある。沖縄県が、今長寿県としての地位が落ちているのは、高齢になる前の世代ががんに罹って亡くなるということも無視できない現状がある。

全国では、肺がんや胃がんの罹患率が高い。沖縄の肺がんは、20年くらい前は死亡率が高かったが、現在は全国と比較してもそんなに高くなっていない。肺がんの原因としては、第1位に喫煙が挙げられており、受動喫煙にも注意喚起が盛んに言われるようになっている。

ラジオ放送中に、ある市町村に問合せをしたが、各市町村でもがん検診を受けるように住民に広く周知され

ているが、がん検診を受ける方が24%程度、2次検診の精密検査を受ける方が41%といった現状である。今は、禁煙治療もあるので、是非、禁煙にチャレンジしていただきたい。(血便があるというリスナーの方からの質問には)すでに血便という症状が出ているので、がん検診を受けるというよりも、早急に病院を受診した方がよい。北部にお住いの様なので、北部地区医師会病院へ行くようにしてはいかがか。大腸がんの患者さんは、がん検診で見つかる方は2割くらいしかない、ほとんどの方が症状が出てからの受診である。がん検診の無料クーポンやハガキについては、各市町村に問合せをしてほしい。仮に、検診のデメリットがあったとしても、それを上回るメリットがあるので、是非、がん検診を受けて頂きたい。

がん相談支援センターの役割

(那覇市立病院 総合相談センターMSW 高江洲アヤ子 氏)

沖縄県には、がん診療連携拠点病院として琉大医学部附属病院・那覇市立病院・県立中部病院の3病院があり、がん診療連携支援病院として、北部知己医師会病院・県立宮古病院・八重山病院の3病院がある。その中に、がん相談支援センターがあるので、どんどん利用してほしいと呼びかけられた。

相談としては、医療費の相談が多く、また告知を受けて頭が真っ白になる方も多いが、そのような様々な悩みや問題について、一緒に考えて、一緒に解決する方法を考えるのが、がん相談支援センターである。必ずしも、相談支援センターにおいでにならなくても、お電話でも他の病院に通っている方でも、本当に気軽に相談してほしい。

また、地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック第4版」も毎年新しい情報を更新している情報誌であり、拠点病院、医療機関・薬局・図書館・公共施設に置いてあるので、上手に活用してほしい。ご家族からもお気軽に相談していただきたい。

ご自宅でのサポートにどんな制度や助成があるかや、セカンドオピニオン(他の先生の意見を聞くこと)も推奨されているので、納得して治療を受けるためにも、是非検討してほしい。

最後に、松野先生から、「沖縄県がん診療連携協議会 HP うちな〜がんネット がんじゅう」の紹介、糸数氏からは、沖縄県の健康長寿を取り戻すために、その三本柱として、①がん検診を受けること、②肥満を解消すること、③適正飲酒 を挙げているので、そのうちの一つの柱であるがん検診についても、県民の皆さんにも関心を高めていただきたい。

聴取者からは、「がん検診を受けようと思う」「初めてがん検診を受ける場合、まずはこれから受けた方がいい!というものがあるか?」等、番組へ対するメッセージが、約200通寄せられた。



平成 26 年度 第 2 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨

【日 時】平成 26 年 7 月 29 日（火） 15：00～17：00

【場 所】琉球大学医学部附属病院 3 階 がんセンター

【参加者】 5 名：長井裕（琉大病院産婦人科）、松野和彦（那覇市立病院）、
増田昌人（琉大病院がんセンター）、大湾盛治（患者の立場の者）、
兼城研（沖縄県保健医療政策課）

【欠席者】 5 名：高橋慶行（県立中部病院）、奥平忠寛（県立宮古病院）、
山本孝夫（県立八重山病院）、赤松道成（北部地域医師会病院）、
又吉美奈子（沖縄県教育庁）

【陪席者】 1 名：井上 亜紀（琉大病院がんセンター）

【報告事項】

1. 平成 26 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 26 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨が承認された。

2. 【施策 2】がん検診啓発活動(ポスターコンテスト)の企画について

資料 2 に基づき、松野副部長より、今年度も、第 4 回目のがん検診啓発ポスターデザインコンテストを実施するとの報告があった。長井部会長より、選定方法や表彰についての確認があり、11 月の協議会を予備審査として、委員の皆さんにお好きなポスターを 3 つ（1 作品、各 1 点とする）選んでいただき、上位 3 作品を最終審査の候補として、12 月の第 3 回普及啓発部会の際の最終審査に加えることが承認された。部会において部会委員の協議により、最優秀賞・優秀賞・アイデア賞を決定し、来年 2 月の協議会にて表彰式を行うことが了承された。

3. 【施策 4】学校教育機関または PTA を媒体としたがん啓発活動について

資料 3 に基づき、松野副部長より、①県立高等学校保健体育主任等研究協議会 {平成 26 年 4 月 30 日(水)} は、がんセンター長の増田委員を講師として、「学校現場におけるがん教育について」のテーマで講義を行ったが、講演会が参考になった・大変参考になったという感想が 90%以上もあり、教職員の皆さんにも学校教育においてもがん教育が必要であるとの認識が芽生えてきていると思われるとの報告があった。

増田委員より、高校の保健体育では、生活習慣病（がんの予防）、薬物乱用、タバコの項目ががんに関連してバラバラで教科書に掲載されており、「がん」として一つにまとめて理解されているわけではなく分断されての理解なので、ひとくくりにしてまとめて授業するのが大変であることや、学校の先生方が生活習慣を変えれば・タバコや薬物をやらなければ・飲酒をしなければ、がんは予防が可能であると考えていたところ、増田委員の講演の中で、がんの最大のリスクが老化であること、タバコを吸わなければがんにならないというわけではないということ、学校教職員の先生方に理解いただくのが難しいことが報告された。

②養護教諭 5 年経験者研修 {平成 26 年 8 月 14 日(木)} について、増田委員より報告があり、増田委員と琉大病院骨髄センター長の百名先生を講師として、「がんの総論」及び「小児がんについて」のテーマで、生活習慣病などいわゆる保健がらみの部分・小児がん罹患している子の対応などをテーマにした講義を行う予定であると周知があった。地域ネットワーク部会の小児がんネットワークの活用や、昨年度の研修会で要望の

あった養護教諭と小児科医との連携作りなどを百名先生にご相談しつつ進めていきたいとの周知もなされた。

長井部会長からの学校現場の学内での連携はどうかとの質問に、学校内の校長・教頭・養護教諭・学年主任・担任の連携は取れているが、学外（他の学校、病院など）とのネットワークがないようで、小児科医と養護教諭とのネットワークを求められていること、相談支援部会で作成した小児がん相談マニュアルを配布し活用方法のミニレクチャーを作成ワーキング長の永吉さんにしていただくことも週周知された。長井部会長や増田委員から、年に数回でも養護教諭と小児科医の情報交換会などを開催するなどを教育センターなどで計画してはどうか、教育の現場なので、いじめが起きないように配慮も必要であることなどの意見交換があった。

長井部会長より、ご父母を亡くした高校生の困っているというような事例が、県に届いているかの質問に対し、兼城委員からは今年度はまだ聞いたことはないとの回答があり、増田委員から厚労省や文科省のがん教育が動き出したばかりなので事例として届いていない状況だろうとの意見があった。

4. 【施策7】がん征圧キャンペーンラジオ番組について

資料4に基づき、長井部会長より、ROK ラジオ沖縄に毎年ご協力いただいて今年で4回目となるがん征圧キャンペーンを行う予定であることが報告された。パーソナリティー玉城美香さんの「チャットステーションL」という特別番組に、医師のお立場として、松野副部会長にゲスト出演いただくことに決定しており、松野副部会長から本人だけでなくご家族からもタバコをやめるよう話してもらおうアピールをしたり、「緩やかな自殺」「緩やかな他殺」などのキーワードも盛り込んだりして話を進めていくとの提案が了承された。

【協議事項】

1. 平成26年度の行動計画について

【施策1】メディアセミナーの開催

増田委員より、11/8に予定をしているが、メディア側は沖縄タイムス社・琉球新報社とも社会部の担当がひとりのために参加者集めが非常に難しい状況があるとの報告があった。長井部会長からの開催の周知方法はどうかの質問には、増田委員より、各新聞社の社会部宛てでは参加者は少なく、個人宛てメールや電話などでお知らせした時は参加者が多かったとの周知方法を検討したいとの回答があった。国立がんセンターのメディアセミナーは会員制で、今年度はメディアセミナーアドバンスとして開催されているが、参加者は全国紙の記者よりも、医療系出版社の方が増えている現状があり、メディアドクターは会費を払えばだれでも参加できるが、メディアドクターも以前より少し活気が落ちている感がある。

長井部会長より、沖縄県内の新聞・テレビに、題材とされる医療記事の「世界で初めてマウスで発見された〇〇〇」といったニュースよりも、地元で根差した「琉大病院の〇〇科は●●が得意です」という地元でも頑張っているという記事を、1週間に1本くらい「沖縄県内の医療の情報」として掲載の依頼をするとか、メディア向けの公開講座も大切であるが、拠点病院の得意な分野・開業医の得意な分野を持ち回りで掲載して、臨床のいい情報をエンドポイントとして掲載することはどうか？との提案があった。増田委員より、国立がんセンターのメディアセミナーやメディアドクター研究会にはその意識はないので、部会としては名称を変えて「医療者側からの情報提供会」とするとかはどうかとの意見が

あった。国立がんセンターのメディアセミナーはシリーズ化しており、医療の報道の意味をちゃんと理解した上で報道し、万能な薬剤が発見された等をそのまま書かないでほしいということがメディアセミナーの発端になっており、メディアドクターは記事の評価であるとの説明があった。

長井部会長より、普及啓発部会の事業として、拠点病院関連病院のがん診療を行っている医師の中から、良い治療や新しい医療の発表会としてメディア向けに開催するしてはどうかとの意見、松野副部会長からは、民間治療・重粒子線治療についての十分な告知もマスコミに流してほしいとの意見、増田委員より、県医師会が2ヶ月ごとに医療情報をマスコミに告知しているが、がんに特化はしていない等の情報提供があった。

事業内容の(1)メディア関係者を対象としたセミナーを開催する、(2)一般市民に正しいがん情報を発信する、ことに基づき、がんの新薬や新しい治療法などの、正確で吟味された情報を定期的に県内の新聞社2社に提供するのは有意義であるし、これらを沖縄タイムスの儀間さんにも相談し、内容を検討していくことで了承された。

【施策3,4,5】学校教育機関またはPTAを媒体としてがん啓発活動(1),(2),(3)

学校PTA向け講演会の開催とアンケート調査の実施においては、事務方が島尻地区や南風原町内のPTA連合会に提案したが、具体的な話に至らなかったため追ってどうなったかを報告するとの周知があった。

がんについての副読本の作成については、著作権などがからみ部会としての作成が難しいことなどが協議され、国(国立がんセンター、厚生労働省)の副読本が完成し配布されたら、それらの活用を啓発していくことで了承された。

児童・生徒に対してのがんに対する授業については、長井部会長より、学校教育の中の総合の時間を頂いて、「体験者」+「医療者」+「質疑応答」をワンセットにした講演の案内文書を、各市町村教育委員会へ投げかけてご希望の学校はお声かけしていただけないかといった広報を行いニーズの把握をしてはどうかという意見が出され、了承された。

【施策6】離島におけるがんに対する講演会の開催

増田委員より、沖縄県地域統括相談支援センターで、宮古・八重山地区の地元の患者さんへの支援を行うため、地元のがん患者さんのニーズを調査しており、がん患者さんの行動変容を伴うような事業を、部会事業とからめて検討していきたいとの報告があった。

【施策8】一般向け講演者リストの公開、更新

事務方より、6月に講演者リストの調査票を拠点病院・支援病院へ送付済みで、現在回収中であるので、追ってリストを作成し協議会HPへアップする予定であるとの進捗報告があった。

【施策9】専門的病院におけるがん種ごとの担当医の公開

事務方より、6月に相談支援部会のセカンドオピニオンリスト調査票とともに、拠点病院・支援病院・がん診療専門病院へ調査票を送付済みなので、追ってリストを作成し協議会HPへアップする予定であるとの進捗報告があった。

【施策10】 職場でのがん検診に対する理解・普及啓発

増田委員より、経営者協会・商工会への声かけがまだできていないとの進捗報告があり、松野副部長より、引き続き声かけをお願いしたいとの依頼があった。

2. 次回、第2回 普及啓発部会 開催日について

第1候補日：12月2日(火)15:00～

第2候補日：12月9日(火)15:00～

第3候補日：11月25日(火)15:00～

*兼城委員より12月は県議会の予定があるとのことだったので、追って日程調整をすることになった。